

## 「やまと教」とロータリー活動

毎年頻繁に欧米を仕事で飛び回っているが、東京は世界で一番安全できれいな街と思う。タクシーに忘れものをしても殆ど手元に戻る日本人の正直さには感動する。また女性が夜の10時過ぎに一人で歩ける都市は何処にもない。正直で親切な日本人は我々自身の誇りでもある。

最近デンマークの取引先を訪問した折の事だ。仕事を終えて明日は日本に帰国する夜に、コペンハーゲンでも有数なレストランに招待された。話が弾み、ワインを少し飲みすぎて、気がついてみれば客は我々だけだ。壁に掛けておいたコートがない。そばに色の違うコートが掛っている。一瞬持ち逃げされたかなと疑った。しかし、取引先の社長もレストランの支配人も「我々デンマーク人は日本人と同様に親切で正直だから、必ず間違えた客が持ってくる」と言う。帰国後すぐにメールが来た。「間違えた客が翌日平謝りであなたのコートをレストランに届け

てきた。そちらへ送る」と連絡を受けた。一瞬でも盗られたかなと疑った自分が恥ずかしくなった。

日本人が正直で親切だとの評価はこれほど世界に浸透している。先日作家のひろさちや氏と懇談したときに、日本の古来民衆の信仰として『やまと教』があると伺った。『や』は人に優しいの『や』、『ま』は真、誠（正直）の『ま』、そして『と』は「とも生き」の『と』、共生のことである。このように古代日本人は人に優しく、誠を尽くし、人と共に生きることを基本としてきた。

今、異文化交流や世界平和の推進に世界のロータリアンが活動している。そこでの理念は、人に優しく、助け合い、奉仕をして共に生きていこうというものではないか。正に日本の『やまと教』の精神そのものと言えよう。仏教が日本に入ってきたのは西暦532年。それよりもはるか昔から日本人は素朴な『やまと教』の精神で生きてきた。我々自身のDNAを改めて学び、ロータリー活動を通じて世界の相互理解と平和に貢献して行きたい。（近藤宣之）